

令和7年度 第5回佐久市社会教育委員会議 会議録

日時 令和7年11月28日（金）午前10時～午前11時30分

会場 佐久市役所南棟3階大会議室

1 開 会 依田副委員長

2 あいさつ 原委員長

3 会議事項

（1）令和8年度佐久地区社会教育連絡協議会総会研修会について

委員長：事務局より説明をお願いします。

事務局：

資料1をご覧ください。来年度、令和8年度の佐久地区社会教育連絡協議会の総会研修会が佐久市で行われることになっております。実施案として、

日時：令和8年5月27日（水）午後。予備日として5月19日、5月25日も押さえてあります。

場所：佐久市生涯学習センター。

現地研修：「こども・子育て支援拠点施設」と「野沢多目的広場」を提案いたします。

所管課（子育て支援課、健康づくり推進課）とは協議中で、この日程なら大きなイベントと重ならず大丈夫という回答を得ています。

事例発表の内容（案）：「佐久市社会教育委員会議の変化について」。

事務局からの報告を受けるだけでなく、積極的に活動していくように変化していった経緯、活動内容、見えてきた課題と今後について発表してはどうかと提案します。

〈質疑応答・協議〉

委員：主催はどこですか？

事務局：主催は佐久地区社会教育連絡協議会で、事務局は東信教育事務所にあります。今回の提案は開催地である佐久市社会教育委員会議としての提案となります。

委員：5月下旬の土曜日は運動会がある可能性があるが、平日（27日）逆に会議が入らず出席可能と思われる。

事務局：時間は概ね13時半頃から総会・発表、その後現地研修で15時頃終了のイメージ。発表の時間だけでも出席出来るとありがたい。

事務局：生涯学習センターの大きな部屋（体育館のような場所）を使用予定。現地研修については新たな施設（こども・子育て支援拠点）ができるため、佐久市としてもぜひ見てもらいたい。社会教育委員が具体的な事業風景を見るのは難しいかもしれないが、施設の見学は確実にできるよう手配する。

事務局：前回佐久市で発表をしたときは、奥村委員の個人活動の発表がメインだったが、今回はこの数年の委員会としての活動（居場所）の経緯を発表できればと思う。結論が出ていなくても、課題が残っているという事実の発表で問題ない。

委員：事務局が叩き台を作成し、それを元に修正していく形で良いか。

事務局：はい。これまでの動きや寄せられた課題を含めて資料を作成します。他市町村では行政報告で終わる会議も多い中、主体的な活動は参考になるはず。

委員：写真や映像、具体的な成果物（CS新聞やカードなど）を入れて、視覚的に分かりやすくしてほしい。

委員：「居場所」というテーマを決めたときに、「ワールドカフェ方式」を取り入れたことが良かったので、その話も盛り込んでほしい。

事務局：委員が感じた「行政の融通の利かなさ」などの課題も含めて、率直に発表することで共有できることがあるはず。

（2）佐久市教育振興基本計画策定に向けたアンケート調査について

委員長：事務局より説明をお願いします。

事務局：

資料2をご覧ください。次期計画策定にあたり、市民ニーズの把握が必要です。前回は社会教育に関するアンケートを実施していなかったため、今回は文部科学省の「生涯学習に関する世論調査」と内容を合わせ、全国との比較ができるようにしたいと考えています。特に「生涯学習を行っていない人」がなぜ行わないのか、という声を拾いたいと考えています。実施期間は12月から1月、基本はインターネット回答とし、広報やSNSを活用します。

〈質疑応答・協議〉

委員：企業などに「グイグイ」お願いに行かないと、回答は集まらないのではないか。

事務局：特定の範囲に絞るのは難しいが、生涯学習に属さない分野への声掛けは検討する。

委員：市職員にもアンケートを取ってもらるべき。

事務局：職員とその家族への依頼は確実にやりたい。

委員：チラシなど項目の入り口を「行政的」ではなく、フランクな感じにした方が回答しやすい。「生涯学習」という言葉が出ると構えてしまう。

委員：紙ベースも絶対必要。年配の方などはスマホでサクサクできない。

委員：人権同和教育の集会（地区懇談会など）の場を利用して、紙を配って協力してもらうのはどうか。

事務局：アンケートの手法が整ったら、QRコード付きの紙などを委員の皆様にも提供するので、周囲への呼びかけをお願いしたい。

（3）教育委員会への提言について進捗報告

委員長：事務局より説明をお願いします。

事務局：

資料3をご覧ください。前期の活動で「CS（コミュニティ・スクール）グループ」と「子育て支援グループ」から頂いた提言に対し、教育委員会議で協議された結果をご報告します。

1. コミュニティ・スクール（CS）グループへの回答

【提言内容】

関係者が悩みを共有し、好事例を横展開できる場の設置（コーディネーター会議の継続）が必要。

【教育委員会の見解】

横の繋がりや認知度不足、担い手不足は課題として認識している。ただし、学校によって取り組みに差があるため、まずは学校ごとの状況を改めて調査する。その上で、学校教育課としても横の繋がりを作る取り組みを進めるが、社会教育委員から提案のあった「コーディネーター会議」についても、枠組みを活かして継続を検討する。

2. 子育て支援グループへの回答

【提言内容】

窓口の一元化、ワンプラットフォーム化（カードの作成など）。

【教育委員会の見解】

市全体として「重層的支援体制整備事業」が始まり、支援情報を一元的にスマホ等で見られるシステムの構築に着手している。教育委員会としてもこのシステムに乗る形で対応したい。一方で、アナログな媒体（カードやマップ）の必要性も認められるため、既存予算の範囲内で作成支援を行う方向で合意した。

〈質疑応答・意見〉

委員（CS関連）：学校間の温度差はある。地域性や伝統行事との兼ね合いもあり、一律にするのは難しいが、情報の共有ができないことは課題。

委員：教育委員会からの回答が初めてあったことは良かったが、「検討します」で止まらず具体的に進めてほしい。

委員：今年度、地域コーディネーター会議が開催されない状況だったため、教育会館で行われた作品展の協力をきっかけに、自分たち（地域側）から声を上げて会議を開催することになった（1月19日）。本来は教育委員会主催が理想だが、待っていられないで動いた。

事務局：委員主体で動いてくださったことはありがたい。情報の連携をしていきたい。

委員（子育て関連）：カード作成について、予算があるなら具体的に進めたい。新しいシステムができるなら、カードの内容（相談先など）もそれに合わせる必要があるのか確認したい。

事務局：相談窓口の機能自体は変わらない。システムは検索しやすくするもの。カードは「まずここに相談」という趣旨で作成を進めてよい。

〈不登校児童の「出席扱い」についての議論〉

委員：前回の話し合いで「学校によって出席の基準（駐車場まで来ればOK、保健室ならOKなど）にバラつきがあるから統一すべき」という話があったが、どうなったか。

事務局：教育委員の中では「基本的に学校ごとのズレはない（解消されている）」という認識だったが、現場の感覚と違うようなので再度確認する。

委員：不登校の子は出席日数に執着がある場合もある。学校によって基準が違うのは不平等ではないか。

委員：公平性と個別の最適化（平等）は違うので、一律の線引きが邪魔になることもあるのではないか。

（4）その他

事務局：全国・関東甲信越静社会教育研究大会に出席した委員に報告と感想の発表をお願いしていたが、時間が無くなつたため次回にお願いする。

委員長：社会教育委員だより「そよかぜ」についても、社会教育研究大会に出席した委員に執筆してもらいたい。別途委員長から依頼する。

事務局：次回会議日程は次第にあるQRコードから調整サイトにアクセスして入力して欲しい。

事務局：東中学校の「総合的な学習の時間」の発表会（貢献活動）が本日午後行われる。

4 閉 会 依田副委員長